

(様式第10)

金 医 大 病 管 第 6 号
平 成 27 年 10 月 5 日

東海北陸厚生局長 殿

学校法人 金沢医科大学
理事長 竹 越 襄 印

金沢医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成26年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒920-0293 石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地
氏 名	学校法人 金沢医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

金沢医科大学病院

3 所在の場所

〒 920 — 0293	電話 (076) 286 — 3511
石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 神経内科 2 内視鏡内科 3 4 5 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科名等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名等						
1 呼吸器外科	2 心臓血管外科	3 小児外科	4 整形外科	5 脳神経外科	6 形成外科	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他標榜していることが求められる診療科名

1 精神科	2 小児科	3 整形外科	4 脳神経外科	5 皮膚科	6 泌尿器科	7 産婦人科
8 産科	9 婦人科	10 眼科	11 耳鼻咽喉科	12 放射線科	13 放射線診断科	
14 放射線治療科	15 麻酔科	16 救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名等						
1 小児歯科	2 矯正歯科	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感 染 症	結 核	療 養	一 般	合 計
3 6 床	0 床	0 床	0 床	7 9 9 床	8 3 5 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 27 年 7 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	334 人	46 人	349.1 人	看護補助者	143 人	診療エックス線技師	人
歯科医師	6 人	1 人	6.2 人	理学療法士	34 人	臨床検査技師	63 人
薬 剤 師	50 人	0 人	50.0 人	作業療法士	16 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	3 人	人	3.0 人	視能訓練士	9 人	臨 床 検 査 師	0 人
助 産 師	21 人	1 人	21.8 人	義肢装具士	人	その他	0 人
看 護 師	625 人	39 人	654.4 人	臨床工学技士	13 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
准看護師	2 人	4 人	4.1 人	栄 養 士	4 人	医療社会事業従事者	5 人
歯科衛生士	8 人	0 人	8.0 人	歯科技工士	3 人	事務職員	88 人
管理栄養士	16 人	0 人	16.0 人	診療放射線技師	34 人	その他の職員	56 人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

(注) 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 27 年 7 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	12 人	眼 科 専 門 医	5 人
外 科 専 門 医	23 人	耳鼻咽喉科専門医	7 人
精 神 科 専 門 医	3 人	放 射 線 科 専 門 医	8 人
小 児 科 専 門 医	9 人	脳神経外科専門医	7 人
皮 膚 科 専 門 医	5 人	整 形 外 科 専 門 医	9 人
泌尿器科専門医	6 人	麻 酔 科 専 門 医	11 人
産婦人科専門医	5 人	救 急 科 専 門 医	6 人
		合 計	116 人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日当たり平均入院患者数	591.9 人	2.4 人	594.3 人
1 日当たり平均外来患者数	875.4 人	35.2 人	910.6 人
1 日当たり平均調剤数	入院 648.5 剤	外来 163.3 剤	
必 要 医 師 数			117 人
必 要 歯 科 医 師 数			2 人
必 要 薬 剤 師 数			20 人
必 要 (准) 看 護 師 数			330 人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

(注) 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備	概 要
集中治療室	793.9 m ²	鉄筋コンクリート	病 床 数	20 床
			心 電 計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 295.5 m ² 台 数 8.0 台	心細動除去装置	(有)・無
			ペースメーカー	(有)・無
			病床数	40 床
医 薬 品 情 報 管 理 室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床面積 70.5 m ² 共用する室名 なし		
化学検査室	166 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	汎用自動分析機2台、免疫分析機6台
細菌検査室	132 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	同定感受性分析装置1台、抗酸菌培養装置1台
病理検査室	251 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動中性緩衝ホルマリン固定液作製装置、迅速自動固定包埋装置、密閉式自動固定包埋装置、凍結ミクロトーム、安全キャビネット、自動染色装置、自動免疫染色装置、顕微鏡
病理解剖室	163 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	感染症防止対策用解剖台、臓器撮影装置、体重計付ストレッチャー
研 究 室	18,605 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	
講 義 室	562 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室
図 書 室	1,858 m ²	鉄筋コンクリート	室数	11 室
			収容定員	420 人
			蔵 書 数	205,058 冊

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

(注) 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算 定 期 間		平成 26年 4月 1日～平成 27年 3月 31日	
紹 介 率	55.0 %	逆 紹 介 率	51.0 %
算 出 根 拠	A：紹介患者の数		9,320 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		9,497 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		908 人
	D：初診の患者の数		18,605 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	33 人
硬膜外自家血注入療法	1 人
多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療	1 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん（エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。）	11 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	希少メンデル遺伝性疾患の遺伝カウンセリングと遺伝子診断	取扱患者数	26 人
当該医療技術の概要 (遺伝子医療センター) マルファン症候群、アラジール症候群、レット症候群、結節性硬化症などの疾患責任遺伝子が判明しているメンデル遺伝性疾患に対し、遺伝カウンセリングを行い、本人または家族の同意を得たうえで遺伝子検査を実施。検査結果を再び遺伝カウンセリングを実施し説明。紹介医と連携し患者の医療に役立てている。			
医療技術名	微細染色体構造異常の遺伝カウンセリングとDNAマイクロアレイ検査	取扱患者数	8 人
当該医療技術の概要 (遺伝子医療センター) 多発先天奇形を対象に通常の染色体分析 (G分染法) では診断できない微細染色体構造異常を、DNAマイクロアレイ検査を用いて診断している。診断の前後に遺伝カウンセリングを行い、患者家族に説明を行っている。また検査により合併症の予測が可能となる場合もあり、主治医と連携して治療にあたっている。			
医療技術名	口唇口蓋裂に対するチーム医療	取扱患者数	100 人
当該医療技術の概要 (形成外科) 口唇口蓋裂患者に対して、形成外科医、耳鼻咽喉科医、小児科医、矯正歯科医、言語聴覚士、などチームを組み乳児期の口唇初回手術から高校生での修正術まで、一貫治療を行っている。			
医療技術名	乳癌に対するチーム医療	取扱患者数	50 人
当該医療技術の概要 (形成外科) 乳腺外科医、形成外科医がチームを組み、乳癌の根治手術から乳房の再建手術まで、患者のQOLを重視した乳癌治療を行っている			
医療技術名	頭頸部癌に対するチーム医療	取扱患者数	15 人
当該医療技術の概要 (形成外科) 頭頸部外科医、耳鼻咽喉科医、形成外科医、放射線科医がチームを組み、頭頸部癌の根治手術から腫瘍切除後の再建手術まで、患者のQOLを重視した頭頸部癌治療を行っている。			
医療技術名	下肢難治性潰瘍に対するチーム医療	取扱患者数	40 人
当該医療技術の概要 (形成外科) 循環器内科医、血管外科医、形成外科医がチームを組み、下肢難治性潰瘍患者に対して血行再建、創傷治療を行い、下肢を可能な限り温存治療することで患者のQOLの向上に努めている。			
医療技術名	MRIとPETの両者の結果の解析による肺腫瘍の良悪性および病期の診断	取扱患者数	50 人
当該医療技術の概要 (呼吸器外科) 肺腫瘍の非観血的診断に関してPET-CTは広く応用されているが、隣接臓器浸潤の診断以外の目的でMRIを併用することは少ない。我々の研究では、MRIを併用することにより良悪性の診断のみならず、リンパ節転移の正診率が著明に向上することが判明した。非侵襲的な検査としてきわめて有用な検査となっている。			
医療技術名	全身MRIによる原発性肺癌の血行性転移の検索	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要 (呼吸器外科) 全身MRIによる病巣の質的診断は、現在端緒についたところであるが、我々の研究によれば、原発性肺癌の血行性転移の発見にも期待が持てることが示唆された。これからさらに症例を重ねて検討を続ける予定である。			
医療技術名	巨大ブラに対する胸腔鏡下ブラ焼灼縮小後の切除術	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要 (呼吸器外科) 巨大ブラに対する胸腔鏡手術において、視野が限られるために最適の切除線を作成することは困難である。我々は巨大ブラのブラ壁を焼灼・縮小させることにより、常に適切な切除線を得ることに成功した。			

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ダットスキャン（ドパミントランスポーターシンチグラフィ）	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要（高齢医学科） ダットスキャンを用いたSPECT検査を既存の診断情報に追加することにより、レビー小体型認知症の診断に貢献する。また、ダットスキャンの線条体への集積低下は、レビー小体型認知症国際臨床診断基準において示唆症状の一つに挙げられている。			
医療技術名	ロータブレーター	取扱患者数	85 人
当該医療技術の概要（循環器内科） 石灰化病変を有する狭心症や心筋梗塞の患者に対して、従来のPTCAでは治療成績が良好でない。ロータブレーターは石灰化病変やびまん性病変、硬い病変に対する治療に有効である。現在、ロータブレーターとステントを併用し、石灰化病変や複雑病変を有する患者に対しても治療成績が良好である。			
医療技術名	光干渉断層撮影（OCT）	取扱患者数	27 人
当該医療技術の概要（循環器内科） 冠動脈内にイメージワイヤー（近赤外線）を挿入し、血管内超音波の約10倍の解像度の画像を得ることができる。血管内超音波では評価困難な線維性被膜が菲薄化した不安定プラークの識別や、高い画像解像度を利用して薬剤溶出性ステント治療後の微小新生内膜の評価ができる。			
医療技術名	心房細動に対するカテーテルアブレーション	取扱患者数	96 人
当該医療技術の概要（循環器内科） 本症例に対して高周波を用いたカテーテルによる肺静脈離断術、complex fractionated atrial electrogram (CFAE)を指標とする左右心房焼灼術、線状焼灼法などを病状に応じて組み合わせることで、心房細動を洞調律化し、良好な洞調律維持を図っている。			
医療技術名	心臓再同期療法（CRT）	取扱患者数	16 人
当該医療技術の概要（循環器内科） 慢性心不全の悪循環を断ち切り、その予後や生活の質を改善させる治療法がCRTである。通常のペースメーカーと同様にリードを右室心尖部に留置し、それに加えて左室側壁にもリードを留置することで、両方から左室を挟み込むようにペーシングし、収縮タイミングの時相のズレを解消させる。			
医療技術名	ループレコーダー	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要（循環器内科） 原因不明の失神を繰り返す患者で、特に心原性失神が強く疑われ、Holter心電図や電気生理学的検査においても確定診断に至らない場合に、原因究明を目的として、皮下に植え込み、皮下心電図を記録・保存することができる心電計である。3年間連続で記録することができる。			
医療技術名	薬理遺伝学に基づくワルファリンの個別化医療	取扱患者数	26 人
当該医療技術の概要（循環器内科） ワルファリンは、至適投与量の個人差が大きい。これに関与する二つの高頻度遺伝子多型（CYP2C9とVKORC1）を調べ、その結果による初期投与量設定で、より早期の至適治療域到達が可能となる。また薬効変動要因である食事性ビタミンKに影響されやすい個人を特定し、それに基づく食事指導を行い、抗凝固療法の安定化を図る。			
医療技術名	経頭蓋磁気刺激	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要（神経科精神科） うつ病を中心とした精神神経疾患患者の治療法として、磁気刺激装置で発生した磁気を頭皮に当てることによって頭蓋内に数秒から数十秒加える。これを1日1～数回、数日間施行する。			
医療技術名	皮膚真菌症原因菌の分子同定	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要（皮膚科） 皮膚病変から分離された病原真菌の分子生物学的同定を行い、他施設症例の診療支援を行っている。			

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	遺伝子解析による遺伝性内分泌疾患の診断	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要 (小児科) 多発性内分泌腫瘍1型(MEN1)、先天性甲状腺機能低下症(MCT8、NKX2-1)、軟骨低形成症(FGFR3)、HDR症候群(GATA3)につき、患者末梢白血球からのゲノムDNAを用い、PCR産物のシークエンスにより遺伝子診断を行っている。			
医療技術名	コイル塞栓術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要 (小児科) 動脈管過依存症をはじめとした異常血管を有する先天性心疾患に対して行っているカテーテル治療である。心カテーテルを用いて異常血管にコイルを挿入し、塞栓を形成することにより血流を遮断する。外科的治療と比べてはるかに低侵襲である。			
医療技術名	造血幹細胞移植(臍帯血移植/血縁同種末梢血幹細胞移植)	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要 (小児科) 希少疾患である小児骨髄異形成症候群および難治性白血病への根治的治療は造血幹細胞移植である。臍帯血はHLA抗原の不一致への許容範囲が広く、かつ、保存された血液であるため移植時期の選定が容易である。また、血縁同種末梢血幹細胞は成分輸血と同様な方法で幹細胞の採取が可能であり、侵襲性が軽減できる。			
医療技術名	早期胃癌に対する、ICG蛍光法センチネルリンパ節誘導機能温存根治手術	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要 (一般・消化器外科) ESD適応外の早期胃癌には、通常リンパ節郭清を伴う胃切除術が行われる。しかしセンチネルリンパ節生検で転移陰性と診断されれば、郭清が省略でき、胃切除範囲の縮小が可能となる。早期胃癌手術適応例を対象に、ICG蛍光法を用いてセンチネルリンパ節生検を行い愁訴や障害の少ない機能温存根治手術を提供している。			
医療技術名	高度進行胃癌・根治切除困難胃癌に対する術前化学療法と胃癌根治手術	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要 (一般・消化器外科) 高度な局所進展や広範なリンパ節転移のために根治切除が困難な胃癌症例の手術治療成績は不良である。しかし近年、切除不能胃癌であっても化学療法で根治切除可能な状態に持ち込める症例が散見される。根治切除困難な胃癌を対象に、外科切除に先立って術前化学療法を行い、根治切除率と生命予後の改善を目指している。			
医療技術名	局所進行膵癌に対する術前放射線化学療法と根治手術	取扱患者数	15 人
当該医療技術の概要 (一般・消化器外科) 膵臓癌は最も予後不良な癌の一つで、特に手術単独では殆ど根治的治療は望めない。局所進行あるいはボーダーライン切除不能な膵臓癌に対して、術前放射線化学療法を施行し、その後に根治手術を組み合わせる行う集学的治療を施行している。			
医療技術名	髄液細胞のフローサイトメトリーを用いた炎症性疾患の診断と治療	取扱患者数	52 人
当該医療技術の概要 (神経内科) 当該医療技術の概要(神経内科) 中枢神経内の炎症や免疫の状態は、通常髄液のルーチン検査として細胞数や蛋白、IgGの値から推定して病態を評価せざるを得ないのが現状である。しかし、髄液採取に際して一部の検体を低温下、低速遠心をかけて髄液細胞を回収し、その細胞の表面および内部の抗原をCD4、CD8、CD25、CD29、CD56、CCR3、CCR4、CCR5、CXCR3等に対するモノクローナル抗体で染色することにより、どのような役割を担った白血球が髄液内で増加あるいは減少しているかを採取同日に知ることができる。この方法により、中枢神経内で起こっている炎症性病態を的確に把握し、正しい診断と治療選択肢に至ることを可能にしている。			
医療技術名	自己免疫性辺縁系脳炎の診断と治療	取扱患者数	350 人
当該医療技術の概要 (神経内科) 当該医療技術の概要(神経内科)：抗NMDA受容体抗体が介在する自己免疫性脳炎は、若年女性に急性の経過で精神症状、けいれん重積、意識障害、呼吸不全などの重篤な症状を呈するもので、卵巣奇形腫が潜在することが多く、早期に腫瘍切除および血漿交換や免疫療法を行えば、症状寛解に至ることが多い。診断には、患者髄液・血清中の抗NMDA受容体抗体を検出することが重要である。我々は、NMDA受容体NR1/NR2ヘテロマーを用いたcell-based assay法による抗NMDA受容体抗体の検出系を確立し、本邦で唯一の抗体検査可能施設であることから、全国諸施設からの抗体診断依頼を受けており、その結果を速やかに診療現場に還元して、適切な加療をガイドしている。			
医療技術名	腎生検組織モノクローナル抗体染色	取扱患者数	60 人
当該医療技術の概要(腎臓内科) 従来、腎生検組織の検査は、光顕、電顕に加えて蛍光抗体による免疫グロブリン補体の染色のみが保険適用されてきたが、糸球体構成成分及び病態関連分子に対するモノクローナル抗体の検索によって、より高度の診断が可能である(C4d、C3d、HLA-DR、CoL4α5/α2、HLA-G1、CD45、CoL1)			

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腎移植免疫モニタリング	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要 (腎臓内科)			
高感度酵素抗体法を用いて腎移植時の血清マーカー(HLA-G5, アディポサイトカイン) による免疫抑制状態の評価を行う。			
医療技術名	アイソトープ治療	取扱患者数	7 人
当該医療技術の概要 (放射線科)			
アイソトープを用い、除痛および疾患の治療を行う。			
医療技術名	硬膜外自家血注入療法	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要 (麻酔科)			
脳脊髄液漏出症患者 (起立性頭痛を有する患者で、脳脊髄液漏出症の画像診断基準で「確実」であると診断されたもの) を対象に、漏出している部分の硬膜外腔に自家血を注入し、血液と硬膜外組織との癒着・器質下により、髄液の漏れている部分を閉鎖し、漏出を止め、症状を改善させる。			
医療技術名	センチネルリンパ節陰性SM胃癌に対する腹腔鏡補助下内視鏡的全層切除術	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 (消化器内視鏡科)			
術中センチネルリンパ節生陰において転移陰性であるSM胃癌に対し、内視鏡下に病変の位置を確認しながら局所全層切除を行う。この方法により残胃のサイズを温存することが可能となり術後のQOLを保つことが可能となる。			
医療技術名	習慣性顎関節脱臼に対する局所麻酔下顎関節形成術	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要 (歯科口腔科)			
高度の認知症や高齢者の有病者などに対し、全身麻酔下における負担を軽減させるために局所麻酔下において習慣性顎関節脱臼の治療法として関節結節 (あるいはあわせて下顎頭の上部) を削除する方法である。			
医療技術名	顎矯正手術	取扱患者数	12 人
当該医療技術の概要 (歯科口腔科)			
顎顔面頭蓋の成長・発育異常による上下の骨格の不調和に歯の位置の異常が加わることにより、重度の咬み合わせの異常と顔面の変形を呈する顎変形症に対して、歯科矯正治療と外科的な顎骨の骨切り手術を併用した外科的矯正手術を行っています。治療の対象は上顎前突症、下顎前突症、上下顎前突症、上顎後退症、下顎後退症、開咬症、顔面非対称です。			
医療技術名	コンピューター支援による顎骨再建術	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 (歯科口腔科)			
顎骨腫瘍などにより下顎骨を切除した際の金属プレートによる即時再建の際に、術前画像所見からコンピューターにより作成した3次元模型により、術前に再建金属プレートの形態調整を行い、手術時間を大幅に短縮する方法である。			
医療技術名	超音波気管支鏡ガイド下針生検 EBUS-TBNA	取扱患者数	17 人
当該医療技術の概要 (呼吸器内科)			
超音波気管支鏡を用い、気管、気管支周囲の病変に対して、血管を避けて安全で確実な穿刺が可能になった気管支鏡検査。			
医療技術名	ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法 EBUS-GS	取扱患者数	32 人
当該医療技術の概要 (呼吸器内科)			
今まで生検が困難だった肺野の小結節に対して、ガイドシースと細径の調音波プローブを用いて、病変まで到達し、生検を行なう気管支鏡検査。			

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ ベーチェット病	39 人	・ 膿疱性乾癬	5 人
・ 多発性硬化症	62 人	・ 広範脊柱管狭窄症	3 人
・ 重症筋無力症	43 人	・ 原発性胆汁性肝硬変	36 人
・ 全身性エリテマトーデス	105 人	・ 重症急性膵炎	0 人
・ スモン	0 人	・ 特発性大腿骨頭壊死症	59 人
・ 再生不良性貧血	17 人	・ 混合性結合組織病	12 人
・ サルコイドーシス	56 人	・ 原発性免疫不全症候群	2 人
・ 筋萎縮性側索硬化症	18 人	・ 特発性間質性肺炎	12 人
・ 強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	79 人	・ 網膜色素変性症	19 人
・ 特発性血小板減少性紫斑病	36 人	・ プリオン病	1 人
・ 結節性動脈周囲炎	33 人	・ 肺動脈性肺高血圧症	4 人
・ 潰瘍性大腸炎	103 人	・ 神経線維腫症	13 人
・ 大動脈炎症候群	20 人	・ 亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ ビュルガー病	18 人	・ バッド・キアリ (Budd-Chiari) 症候群	0 人
・ 天疱瘡	3 人	・ 慢性血栓塞栓性肺高血圧症	9 人
・ 脊髄小脳変性症	43 人	・ ライソゾーム病	1 人
・ クローン病	48 人	・ 副腎白質ジストロフィー	1 人
・ 難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0 人	・ 家族性高コレステロール血症 (ホモ接合体)	0 人
・ 悪性関節リウマチ	16 人	・ 脊髄性筋萎縮症	2 人
・ パーキンソン病関連疾患 (進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	130 人	・ 球脊髄性筋萎縮症	3 人
・ アミロイドーシス	1 人	・ 慢性炎症性脱髄性多発神経炎	7 人
・ 後縦靱帯骨化症	104 人	・ 肥大型心筋症	6 人
・ ハンチントン病	0 人	・ 拘束型心筋症	0 人
・ モヤモヤ病 (ウィリス動脈輪閉塞症)	20 人	・ ミトコンドリア病	3 人
・ ウェゲナー肉芽腫症	3 人	・ リンパ脈管筋腫症 (LAM)	1 人
・ 特発性拡張型 (うっ血型) 心筋症	20 人	・ 重症多形滲出性紅斑 (急性期)	1 人
・ 多系統萎縮症 (線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガ症候群)	24 人	・ 黄色靱帯骨化症	4 人
・ 表皮水疱症 (接合部型及び栄養障害型)	3 人	間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常 症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異 常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能 低下症)	134 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 小児入院医療管理料 2
・ 特定機能病院入院基本料 (一般7:1、精神15:1)	・ 回復期リハビリテーション病棟入院料 2
・ 臨床研修病院入院診療加算	・
・ 救急医療管理加算1	・
・ 妊産婦緊急搬送入院加算	・
・ 診療録管理体制加算1	・
・ 急性期看護補助体制加算 25対1	・
・ 看護補助加算1	・
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算1	・
・ 無菌治療室管理加算2	・
・ 精神科リエゾンチーム加算	・
・ がん診療連携拠点病院加算	・
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染防止対策加算1	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・
・ 退院調整加算	・
・ 総合評価加算	・
・ データ提出加算2	・
・ 特定集中治療室管理料 4 (広範囲熱傷特定集中治療管理料)	・
・ 新生児特定集中治療室管理料 1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料（植込型除細動器移行加算）	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・高度難聴指導管理料	・植込型心電図検査
・糖尿病合併症管理料	・時間内歩行試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・胎児心エコー法
・がん患者指導管理料 1、2、3	・ヘッドアップティルト試験
・移植後患者指導管理料（臓器移植後）	・人工臓臓
・糖尿病透析予防指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・外来リハビリテーション診療料	・光トポグラフィー
・外来放射線照射診療料	・神経学的検査
・ニコチン依存症管理料	・補聴器適合検査
・地域連携診療計画管理料	・ロービジョン検査判断料
・地域連携診療計画退院時指導料（Ⅰ）	・コンタクトレンズ検査料 1
・がん治療連携計画策定料	・小児食物アレルギー負荷検査
・がん治療連携指導料	・内服・点滴誘発試験
・がん治療連携管理料	・センチネルリンパ節生検（乳がんに係るものに限る。）
・肝炎インターフェロン治療計画料	・C T透視下気管支鏡検査加算
・薬剤管理指導料	・画像診断管理加算 1
・医療機器安全管理料 1	・画像診断管理加算 2
・医療機器安全管理料 2	・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・歯科治療総合医療管理料	・C T撮影及びMR I 撮影
・在宅患者歯科治療総合医療管理料	・冠動脈C T撮影加算
・持続血糖測定器加算	・大腸C T撮影加算
・造血器腫瘍遺伝子検査	・心臓MR I 撮影加算
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・検体検査管理加算（Ⅰ）	・外来化学療法加算 1
・検体検査管理加算（Ⅳ）	・無菌製剤処理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）
・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	・乳がんセンチネルリンパ節加算2
・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
・運動器リハビリテーション料（Ⅱ）	・経皮的冠動脈形成術
・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	・経皮的冠動脈形成術（高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの）
・がん患者リハビリテーション料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・経皮的中隔心筋焼灼術
・認知療法・認知行動療法	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・精神科作業療法	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・医療保護入院等診療料	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術（レーザーシースを用いるもの）
・エタノールの局所注入（甲状腺に対するもの）	・両室ペースメーキング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーキング機能付き植込型除細動器交換術
・エタノールの局所注入（副甲状腺に対するもの）	・大動脈バルーンポンピング法（IABP法）
・透析液水質確保加算2	・補助人工心臓
・一酸化窒素吸入療法	・経皮的大動脈遮断術
・CAD/CAM冠	・ダメージコントロール手術
・歯科技工加算	・体外衝撃波胆石破碎術
・皮膚悪性腫瘍切除術（悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）	・腹腔鏡下肝切除術
・組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・頭蓋骨形成手術（骨移動を伴うものに限る。）	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））	・同種死体腎移植術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・生体腎移植術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術
・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療以外の診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療以外の診療に係るものに限る。）	・胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 輸血管理料Ⅰ	
・ 輸血適正使用加算	
・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・ 歯周組織再生誘導手術	
・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・ 麻酔管理料(Ⅰ)	
・ 麻酔管理料(Ⅱ)	
・ 放射線治療専任加算	
・ 外来放射線治療加算	
・ 高エネルギー放射線治療	
・ 強度変調放射線治療(ⅠMR T)	
・ 画像誘導放射線治療加算(ⅠGR T)	
・ 体外照射呼吸性移動対策加算	
・ 定位放射線治療	
・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
・ 保険医療機関間の連携による病理診断	
・ テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製	
・ テレパソロジーによる術中迅速細胞診	
・ 病理診断管理加算2	
・ クラウン・ブリッジ維持管理料	
・ 歯科矯正診断料	
・ 顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	
・	
・	
・	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	・
・インプラント義歯	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・画像支援ナビゲーション手術	・
・胎児心超音波検査	・
・光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	外科症例検討会48回、剖検症例CPC 7回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 27 例 / 剖検率 9.5 %

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研 究 課 題 名	研 究 者 氏 名	所 属 部 門	金 額	補 助 元 又 は 委 託 元	
分岐理論に基づくヒト固有心筋自動能の発生機序並びに合理的制御法の解明	倉田 康孝	生理学Ⅱ	¥2,700,000	補	(独) 日本学術振興会
膵管内腺構造の回転と浸潤・転移	清川 悦子	病理学Ⅰ	¥4,300,000	委補	(独) 日本学術振興会
母胎児間シグナルチューニング機構の分子基盤解明	八田 稔久	解剖学Ⅰ	¥3,600,000	委補	(独) 日本学術振興会
DNA修復蛋白質53BP1の細胞表層への露出とアポトーシス細胞の腫瘍免疫原性獲得	岩淵 邦芳	生化学Ⅰ	¥7,300,000	委補	(独) 日本学術振興会
環状ホスファチジン酸による抗動脈硬化作用を利用した治療創薬の基盤開発	塚原 完	血液免疫内科学	¥4,400,000	委補	(独) 日本学術振興会
うつ病者の自殺予防に関する感情調整療法アプローチの開発	長谷川 雅美	看護学部	¥1,700,000	委補	(独) 日本学術振興会
現代の食習慣の特徴と非アルコール性脂肪性肝障害の発症・進展との関連性に関する研究	竹内 正義	先端医療研究領域	¥3,900,000	委補	(独) 日本学術振興会
栄養応答シグナルの破綻による代謝疾患の発症機構の理解と制御手段の確立	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥4,100,000	委補	(独) 日本学術振興会
おとり遺伝子による癌の血管新生抑制を標的とした純国産型遺伝子治療法の開発	石橋 浩晃	顎口腔外科学	¥3,500,000	委補	(独) 日本学術振興会
ベトナムにおけるタバコ煙の胎児脳機能と乳幼児脳神経発達に及ぼす影響	西条 旨子	公衆衛生学	¥3,200,000	委補	(独) 日本学術振興会
母胎間シグナル伝達による胎児大脳新皮質の好氣的誘導	島田 ひろき	解剖学Ⅰ	¥1,100,000	委補	(独) 日本学術振興会
霊長類コモン・マーモセットを用いた味覚ブレイン-マシン・インターフェースの開発	藺村 貴弘	解剖学Ⅱ	¥2,100,000	委補	(独) 日本学術振興会

イオンチャネルを介したオメガ-3 不飽和脂肪酸のアルツハイマー病脳改善作用	田嶋 信義	生理学 I	¥2, 300, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
ヒト幹細胞由来心筋細胞における自動能機序の解明とバイオペースメーカーシステム設計	倉田 康孝	生理学 II	¥2, 300, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
アナフィラキシーショックにおける脳循環の統合的研究	芝本 利重	生理学 II	¥700, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
成育初期ストレスによる精神的発達障害のメカニズムムスカリン受容体の新しい機能	村松 郁延	薬理学	¥500, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
末梢性代謝型グルタミン酸受容体による熱痛覚過敏および鈍麻の分子機構解明	西尾 眞友	薬理学	¥2, 200, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
レンズ上皮細胞の形態維持機構の解明	清川 悦子	病理学 I	¥1, 300, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
細胞膜スフィンゴ脂質のラフト形成を介した肺腺癌浸潤・転移への関与の解明	上田 善道	病理学 II	¥1, 500, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
Scaffold ウイルス感染は自己免疫疾患（特に I 型糖尿病）のトリガーとなるか？	姫田 敏樹	微生物学	¥1, 500, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
Scaffold ウイルス感受性を規定する宿主因子の同定から指向した病原性解析	大原 義朗	微生物学	¥1, 500, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
CM2 の塩素イオンチャネル活性は C 型インフルエンザウイルスの増殖を制御するか？	村木 靖	微生物学	¥1, 200, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
悪性中皮腫におけるATBF1リン酸化状態と細胞内局在-悪性度との関連性の究明	湊 宏	臨床病理学	¥1, 600, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
IgG4関連疾患におけるThy-1、PDGFの発現に関する解析	黒瀬 望	臨床病理学	¥900, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
日本人労働者の職業性ストレスと脳・心血管疾患発症の関係	石崎 昌夫	衛生学	¥1, 400, 000	補 委	(独) 日本学術振興会

喫煙者のC K D兆候の特徴とその意義の解明	登坂 由香	衛生学	¥500, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
体内鉄動態と主要生体指標との関連の疫学研究	中村 幸志	公衆衛生学	¥2, 400, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
体組成と健診データの疫学的関連に基づくサルコペニア肥満のスクリーニング方法の開発	櫻井 勝	公衆衛生学	¥2, 300, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
栄養薬理遺伝学を用いた次世代抗凝固療法の開発	梶波 康二	循環器内科学	¥1, 700, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
血管内皮前駆細胞に注目した肺気腫病変と肺気腫合併肺高血圧の病態解析	水野 史朗	呼吸器内科学	¥1, 200, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
肺がん化学療法における交流磁場併用療法の開発	小林 誠	呼吸器内科学	¥1, 400, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
前向き腎移植コホートにおける慢性移植腎障害関連分子に関するプロテオミックス解析	横山 仁	腎臓内科学	¥1, 200, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
I g G 4 関連疾患における疾患特異的に変動する代謝物群を利用したメタボロミックス解析	岩男 悠	血液免疫内科学	¥600, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
コンピュータ白血病幹細胞システムによる再発動態解析と治療開発への基盤創成	犀川 太	小児科学	¥1, 000, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
ストロンチウム治療後におけるリンパ球の放射線組織障害の検討	道合 万里子	放射線医学	¥700, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
放射性ヨード治療におけるリンパ球のDNA損傷に関する検討	渡邊 直人	放射線医学	¥900, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
ステロイド誘発性大腿骨頭壊死の遺伝子修飾骨髄由来組織幹細胞の全身投与による予防	市堰 徹	整形外科学	¥1, 300, 000	補 委	(独) 日本学術振興会
眼部紫外線防御アイテムとしての眼鏡の有効性評価に関する研究	佐々木 洋	眼科学	¥500, 000	補 委	(独) 日本学術振興会

後発白内障における水晶体上皮間葉系移行と水晶体再生制御機構の解明	久保 江理	眼科学	¥1,000,000	補 委	(独) 日本学術振興会
尿路結石におけるHMGB1とRAGEによる発生機序の解明と阻止機構の証明	宮澤 克人	泌尿器科学	¥1,400,000	補 委	(独) 日本学術振興会
排卵障害に対するG-CSFによる治療法の確立を目指して	牧野田 知	産科婦人科学	¥1,600,000	補 委	(独) 日本学術振興会
高齢者における慢性腎臓病の指標としてのADMAと冠動脈石灰化進展に関する追跡研究	長澤 晋也	健康管理センター	¥400,000	補 委	(独) 日本学術振興会
下垂体の病態は自殺に関与するか? : 自殺例における下垂体の法医病理学的解析	王 路	法医学	¥1,600,000	補 委	(独) 日本学術振興会
頭部外傷による呼吸及び循環中枢の神経細胞障害の解析及び法医病理学的診断への応用	北村 修	法医学	¥1,100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
音響・調音データベースに基づくバイオフィードバックによる英文リズム学習方法の開発	澁谷 良穂	一般教育機構	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
工学的関心に則したロボット倫理学の構築	本田 康二郎	一般教育機構	¥700,000	補 委	(独) 日本学術振興会
胎盤栄養膜細胞の浸潤能獲得におけるガレクチンファミリーによる制御機構	東海林 博樹	一般教育機構	¥1,400,000	補 委	(独) 日本学術振興会
高齢者の転倒防止における看護実践能力育成のための評価指標の開発	平松 知子	看護学部	¥700,000	補 委	(独) 日本学術振興会
大規模労働者集団における睡眠状況と10年間の血圧変化に関する縦断研究	中島 素子	看護学部	¥900,000	補 委	(独) 日本学術振興会
成人2型糖尿病患者のレジリエンス評価尺度の作成	村角 直子	看護学部	¥1,100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
スキンケアの深化: スキンケア(皮膚裂傷) 予防システムの構築	紺家 千津子	看護学部	¥1,900,000	補 委	(独) 日本学術振興会

夜勤労働の前立腺疾患リスクにおける 老化バイオマーカーの関連についての 縦断研究	森河 裕子	看護学部	¥2,300,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
認知症患者の家族介護者に対する睡眠 支援を目的としたレスパイトケアの効 果検証	櫻井 志保美	看護学部	¥1,900,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
2型糖尿病患者の運動療法のとらえ方か らみた運動療法看護教育プログラムの 完成	山崎 松美	看護学部	¥2,700,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
訪問看護師向け長期膀胱留置カテー テル閉塞予防・対応プロトコルの開 発、効果検証	前田 修子	看護学部	¥1,300,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
虚弱高齢者に対する介護予防サポー ターによる「声かけ訪問」プログラ ムの開発と評価	浜崎 優子	看護学部	¥1,500,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
生活圏内での感染症媒介昆虫（蚊）と ヒトの接触頻度と患者数の関係	村上 学	生命科学研究領域	¥1,500,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
神経幹細胞における新規中心体制御機 構の解析	石垣 靖人	生命科学研究領域	¥1,300,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
UBR4/p600-HPV16 E7相互作用による発 がんメカニズム	田崎 隆史	生命科学研究領域	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
セリンプロテアーゼインヒビターによ るアレルギー反応の制御機構の解明	中村 晃	免疫学	¥1,400,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
高度たんぱく質制限の尿細管オート ファジー活性化を介した糖尿病腎症抑 制機序の解明	北田 宗弘	糖尿病・内分泌内科学	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
COMT不全がもたらす健康被害の分子機 構解明	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	¥1,500,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
GLP-1による神経性インスリン分泌促進 機構の解明と2型糖尿病治療への応用	西澤 誠	糖尿病・内分泌内科学	¥1,500,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
統合失調症の発症臨界期における社会 認知障害の臨床研究	川崎 康弘	精神神経科学	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興 会

肺腺癌の転移機構：H I F - 1 / ヒストン修飾調節による A Q P 1 の過剰発現	町田 雄一郎	呼吸器外科学	¥1,500,000	補 委	(独) 日本学術振興会
MR拡散強調画像と血管新生因子・遺伝子解析による肺良悪性病変の悪性度の研究	薄田 勝男	呼吸器外科学	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
環境ホルモンによる変形性顎関節症の発症機序と病態機構の解明	金山 景錫	顎口腔外科学	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
食べ方の指導による嗅神経再生効果の画像解析研究	志賀 英明	耳鼻咽喉科学	¥1,000,000	補 委	(独) 日本学術振興会
神経性嗅覚障害の病態解明と治療への応用-鍵を握るのはエストロゲンか成長因子か?-	三輪 高喜	耳鼻咽喉科学	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
母胎間シグナル伝達から迫る精神・神経疾患スペクトラムの胎児起源仮説	八田 稔久	解剖学 I	¥600,000	補 委	(独) 日本学術振興会
アセチルコリンによる細胞内受容体を介した新たなシナプス可塑性調節機構の解明	工藤 麻希子	薬理学	¥1,800,000	補 委	(独) 日本学術振興会
双方向学習およびTBL活用を目指した電子ノートシステムの開発	黒田 尚宏	医学教育学	¥500,000	補 委	(独) 日本学術振興会
幹細胞ニッチに着目した軟骨膜片移植による長期形態維持性耳介軟骨再生法の開発	小室 明人	形成外科学	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
在宅終末期ケアに携わる訪問看護師の看護倫理教育の展開と組織化に関する研究	平山 恵美子	看護学部	¥800,000	補 委	(独) 日本学術振興会
医療処置を要する在宅療養者と支援者による災害備えチェックシートの開発	中井 寿雄	看護学部	¥1,000,000	補 委	(独) 日本学術振興会
抗がん剤点滴静脈内注射の血管外漏出の有無の客観的判定基準の開発	松井 優子	看護学部	¥1,900,000	補 委	(独) 日本学術振興会
深部静脈血栓症予防用弾性ストッキングにおける皮膚障害予防ケア基準の開発	木下 幸子	看護学部	¥2,300,000	補 委	(独) 日本学術振興会

認知症高齢者に対しタクティールケアを施す家族自身に及ぼすリラックス効果の検証	小泉 由美	看護学部	¥700,000	補 委	(独) 日本学術振興会
里帰り分娩後から1か月間における初めて母親・父親となった夫婦の3人家族作りの体験	保田 ひとみ	看護学部	¥700,000	補 委	(独) 日本学術振興会
タクティールケア介入による睡眠への効果検証	坂井 恵子	看護学部	¥500,000	補 委	(独) 日本学術振興会
内因性抗線維化分子に着目した、腎線維化の制御手段開発	永井 貴子	内分泌・代謝科	¥600,000	補 委	(独) 日本学術振興会
オートファジー制御による糖尿病腎症に対する新たな治療薬の開発	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
急性肺障害に対する遺伝子修飾骨髄由来間葉系幹細胞の全身投与による治療法の確立	田中 良	呼吸器外科学	¥900,000	補 委	(独) 日本学術振興会
おとり遺伝子を用いた変形性関節症への新規遺伝子治療法の応用	石橋 浩晃	顎口腔外科学	¥800,000	補 委	(独) 日本学術振興会
スフィンゴ脂質の新規機能に着目した口腔癌に対する新たな浸潤・転移制御法の開発	加藤 晃一郎	顎口腔外科学	¥1,100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
うつ症状発現におけるCRFの扁桃体GABA作動系制御メカニズム	山本 亮	生理学Ⅰ	¥1,000,000	補 委	(独) 日本学術振興会
レプチンによる肝臓及び膵臓自律神経調節と糖代謝改善への応用	谷田 守	生理学Ⅱ	¥1,400,000	補 委	(独) 日本学術振興会
抗がん剤によるDNA二本鎖切断の修復経路操作と細胞死誘導の解析	逆井 良	生化学Ⅰ	¥1,000,000	補 委	(独) 日本学術振興会
DNA損傷修復蛋白質XRCC4の脱リン酸化がアポトーシス促進の引き金となるか	砂谷 優実	生化学Ⅰ	¥800,000	補 委	(独) 日本学術振興会
血管は神経の働きかけにどう応答するか？血管形成におけるJ u n Bの新しい役割の解明	吉富 泰央	生化学Ⅱ	¥800,000	補 委	(独) 日本学術振興会

細胞内ムスカリン受容体によるシナプス可塑性制御機構の解明と認知症との関連性	益岡 尚由	薬理学	¥1,700,000	補	(独) 日本学術振興会
遺伝子改変マウスを用いた胃がん形成における炎症反応の役割の解析	武田 はるな	病理学 I	¥1,600,000	委補	(独) 日本学術振興会
リン酸化モチーフの比較進化解析から細胞機能とモチーフの関係を明らかにする	吉崎 尚良	病理学 I	¥1,000,000	委補	(独) 日本学術振興会
I g G 4 関連疾患患者血清中の疾患特異的に変動するタンパク質群の網羅解析	河南 崇典	血液免疫内科学	¥500,000	委補	(独) 日本学術振興会
I g G 4 関連疾患患者末梢血単核球におけるトランスクリプトーム解析	中島 章夫	血液免疫内科学	¥800,000	委補	(独) 日本学術振興会
翼状片発症機構の解明と予防薬の開発に関する研究	柴田 奈央子	眼科学	¥700,000	委補	(独) 日本学術振興会
学習データの自動生成による希少細胞検出システムの研究	織田 英人	FDD-MBセンター	¥900,000	委補	(独) 日本学術振興会
体力づくりを配慮したゴール型教材の授業づくりに関する研究	津田 龍佑	一般教育機構	¥900,000	委補	(独) 日本学術振興会
レビー小体型認知症の新規画像診断システムの開発：高解像度イメージング技術の応用	奥田 光一	一般教育機構	¥1,100,000	委補	(独) 日本学術振興会
老年期うつ病者の「レジリエンス」向上に寄与する治療的看護実践の考案	田中 浩二	看護学部	¥1,100,000	委補	(独) 日本学術振興会
ストレングスモデルに基づく行動制限最小化看護介入の開発に関する研究	長山 豊	看護学部	¥900,000	委補	(独) 日本学術振興会
座位褥瘡を座位で治す革新的褥瘡ケア方法の確立	福田 守良	看護学部	¥1,800,000	委補	(独) 日本学術振興会
外来化学療法を行う大腸がん術後患者のマネジメント能力を高めるケア基準の開発	北村 佳子	看護学部	¥800,000	委補	(独) 日本学術振興会

養育者の心理傾向に着目した虐待への ポピュレーションアプローチに関する 研究	寺井 孝弘	看護学部	¥600,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
ミトコンドリアの恒常性維持を基盤と したサーチュインの糖尿病腎症に対す る意義の解明	渡邊 愛	内分泌・代謝科	¥1,600,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
日本脳炎ウイルス感染におけるスフィ ンゴミエリン/脂質ラフトの役割	谷口 真	生命科学研究領域	¥1,300,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
終末糖化産物に着目した糖尿病併発膝 癌促進蛋白質の同定及び柑橘類含有化 合物の作用	高田 尊信	先端医療研究領域	¥1,900,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
TLR9シグナルの新規制御分子Sortilin の機能解析	和田 俊樹	免疫学	¥1,700,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
小胞体分子シャペロン誘導を介した糖 尿病腎症の抗線維化治療	乙田 敏城	糖尿病・内分泌内科学	¥1,000,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
転写因子ストークヘッドボックス1 蛋 白の生物学的・病理学的意義の検討	金崎 めぐみ	糖尿病・内分泌内科学	¥1,100,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
マウス骨髄脂肪の加齢におけるスフィ ンゴ脂質変化の解析とその造血幹細胞 に与える影響	小木曾 英夫	血液免疫内科学	¥1,200,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
リンパ浮腫の軽減を目的としたさらに 有効なケア開発のための基礎的研究	浅野 きみ	看護学部	¥1,100,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
手に取って観察できる透明標本作製法 の確立	三谷 真弓	医学部庶務課	¥600,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
器官・組織形成期の発生異常に基づく 上皮管腔組織形成障害	八田 稔久	解剖学Ⅰ	¥1,500,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
抗糖尿病薬が2型糖尿病ラットの骨イン プラント結合に与える影響の力学・組 織学的分析	菌村 貴弘	解剖学Ⅱ	¥100,000	補 委	(独) 日本学術振興 会
閉経期のホルモン環境変化で生じる中 枢性聴覚障害に関する研究	本間 智	解剖学Ⅱ	¥10,000	補 委	(独) 日本学術振興 会

DNA二本鎖損傷修復経路選択機構の解明とゲノム編集技術への応用	逆井 良	生化学 I	¥700,000	補	(独) 日本学術振興会
細胞内情報伝達系の多次元FRETイメージング	清川 悦子	病理学 I	¥1,500,000	委補	(独) 日本学術振興会
交流磁場を用いた抗がん剤の標的治療技術の開発	小林 誠	呼吸器内科学	¥50,000	委補	(独) 日本学術振興会
アジア太平洋地域における膜性腎症の実態調査研究	横山 仁	腎臓内科学	¥300,000	委補	(独) 日本学術振興会
アジア腎生検レジストリーの創設と最適な腎疾患治療を目指すアジア腎疾患コホート研究	横山 仁	腎臓内科学	¥500,000	委補	(独) 日本学術振興会
骨組織による血糖値調節機構の解明ー スフィンゴミエリンの重要性ー	岡崎 俊朗	血液免疫内科学	¥100,000	委補	(独) 日本学術振興会
カーボンナノチューブによる骨芽細胞の石灰化促進メカニズムの解明	塚原 完	血液免疫内科学	¥100,000	委補	(独) 日本学術振興会
ナノマテリアルに対する特異的受容体の同定	塚原 完	血液免疫内科学	¥100,000	委補	(独) 日本学術振興会
ヒト発話シミュレータによるStory Teller Systemの構築	トナ エリクソン	一般教育機構	¥400,000	委補	(独) 日本学術振興会
記述に根ざした技術の現象学的研究：技術の記述的探究と批判的視点の確立	本田 康二郎	一般教育機構	¥100,000	委補	(独) 日本学術振興会
看護と介護のより良い連携に向けた教育デザインー感染防御策に焦点を当ててー	橋本 智江	看護学部	¥300,000	委補	(独) 日本学術振興会
2型糖尿病患者の運動療法のとらえ方からみた運動療法看護教育プログラムの完成	紺家 千津子	看護学部	¥80,000	委補	(独) 日本学術振興会
セルフ・ネグレクト高齢者への効果的な介入・支援とその評価に関する実践的研究	浜崎 優子	看護学部	¥300,000	委補	(独) 日本学術振興会

入院高齢者の夜間の排泄と睡眠状態の解析による転倒リスク軽減へのストラテジー	平松 知子	看護学部	¥80,000	補 委	(独) 日本学術振興会
降雪地域の高齢者の心身機能向上を目的とした歩行機能サポートプログラムの構築と評価	平松 知子	看護学部	¥100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
女性アルコール依存症者の死への転帰を予防するための断酒継続プログラムの開発	長谷川 雅美	看護学部	¥50,000	補 委	(独) 日本学術振興会
臨床判断力育成を包含した転倒予防のコンピューターシミュレーションプログラムの開発	平松 知子	看護学部	¥115,000	補 委	(独) 日本学術振興会
急性期病院における高齢患者に対するコンチネンスケアプログラムの開発	平松 知子	看護学部	¥100,000	補 委	(独) 日本学術振興会
認知症対応型看護実践のための教育プログラムの開発	平松 知子	看護学部	¥50,000	補 委	(独) 日本学術振興会
認知症高齢者の転倒予防看護質指標による看護介入プログラムと実践継続システムの開発	平松 知子	看護学部	¥200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
寝たきり高齢者の褥瘡予防のための圧分散と寝床内環境調整を加味したシーツの開発	紺家 千津子	看護学部	¥50,000	補 委	(独) 日本学術振興会
高齢者のスキンテア（皮膚裂傷）発生リスクの同定とテラーメイドプロトコルの開発	紺家 千津子	看護学部	¥80,000	補 委	(独) 日本学術振興会
COMT阻害剤投与により惹起される代謝異常全体像の把握	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	¥500,000	補 委	(独) 日本学術振興会
がん患者とその子供への支援プログラムの開発ー芸術療法とPILテストの導入の試み	北本 福美	精神神経科学	¥300,000	補 委	(独) 日本学術振興会
作業療法士のコミュニケーションスキルを育成するための支援システムの開発	影近 謙治	リハビリテーション医学	¥200,000	補 委	(独) 日本学術振興会
生活習慣病の発症・進展における新規ターゲットとしてのToxic AGEs (TAGE)の関与とその阻止	竹内 正義	先端医療研究領域	¥6,131,000	補 委	文部科学省

地域・在宅高齢者における摂食嚥下・栄養障害に関する研究-特にそれが及ぼす在宅療養の非継続性と地域における介入・システム構築に向けて	森本 茂人	高齢医学	¥600,000	補 委	厚生労働省
多発性硬化症生体試料バンクを活用したアジア人特有の遺伝環境因子探索による病態解明	松井 真	神経内科学	¥700,000	補 委	厚生労働省
免疫性ニューロパチーの治療反応性予測に基づく有効な治療戦略の構築	松井 真	神経内科学	¥500,000	補 委	厚生労働省
難治性疾患の継続的な疫学データの収集・解析に関する研究	櫻井 勝	公衆衛生学	¥300,000	補 委	厚生労働省
難治性腎疾患に関する調査研究	横山 仁	腎臓内科学	¥1,000,000	補 委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	田中 真生	血液免疫内科学	¥300,000	補 委	厚生労働省
エビデンスに基づいた神経免疫疾患の早期診断基準・重症度分類・治療アルゴリズムの確立	松井 真（研究代表者）	神経内科学	¥23,308,000	補 委	厚生労働省
特発性大腿骨頭壊死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究	松本 忠美	整形外科学	¥120,000	補 委	厚生労働省
先天性難治性稀少泌尿生殖器疾患群（総排泄腔遺残、総排泄腔外反、MRKH症候群）におけるスムーズな成人期医療移行のための分類・診断・治療ガイドライン作成	河野 美幸	小児外科学	¥500,000	補 委	厚生労働省
小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究	河野 美幸	小児外科学	¥200,000	補 委	厚生労働省
重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略	三輪 高喜	耳鼻咽喉科学	¥700,000	補 委	厚生労働省
希少性難治性疾患－神経・筋難病疾患の進行抑制治療効果を得るための新たな医療機器、生体電位等で随意コントロールされた下肢装着型補助ロボット（HAL-HN01）に関する医師主導治験の実施研究	田中 恵子	生命科学研究領域	¥800,000	補 委	厚生労働省
新たな薬剤耐性機構の解明及び薬剤耐性菌のサーベイランスに関する研究	飯沼 由嗣	臨床感染症学	¥1,000,000	補 委	厚生労働省

大規模疫学調査による、認知症の発症促進因子および抑制因子の検索に関する研究	森本 茂人	高齢医学	¥2,400,000	補	厚生労働省
慢性腎不全診療最適化による新規透析導入減少実現のための診療システム構築に関する研究	横山 仁	腎臓内科学	¥300,000	委補	厚生労働省
BIM遺伝子多型陽性癌におけるHDAC阻害薬の耐性克服効果を最適化する薬力学的効果の指標を探索する研究	清川 悦子	病理学 I	¥2,000,000	委補	厚生労働省
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	野島 孝之	臨床病理学	¥200,000	委補	厚生労働省
循環器疾患における集団間の健康格差の実態把握とその対策を目的とした大規模コホート共同研究	中川 秀昭	公衆衛生学	¥1,800,000	委補	厚生労働省
社会的要因を含む生活習慣病リスク要因の解明を目指した国民代表集団の大規模コホート研究：NIPPON DATA80/90/2010	中川 秀昭	公衆衛生学	¥500,000	委補	厚生労働省
真菌感染症の病態解明及び検査・治療法の確立とサーベイランスに関する研究	望月 隆	皮膚科学	¥850,000	委補	厚生労働省
医療機関における感染制御に関する研究	飯沼 由嗣	臨床感染症学	¥400,000	委補	厚生労働省
慢性腎臓病の進行を促進する薬剤等による腎障害の早期診断法と治療法の開発	横山 仁	腎臓内科学	¥1,000,000	委補	厚生労働省
市販後における重篤副作用（間質性肺炎、横紋筋融解症、重症薬疹等）の発症要因解明と安全対策に関する研究	梶波 康二	循環器内科学	¥500,000	委補	厚生労働省
精神疾患患者に対する早期介入とその体制の確立のための研究	川崎 康弘	精神神経科学	¥500,000	委補	厚生労働省
先天異常モニタリング解析による本邦の先天異常発生状況の推移とその影響要因（放射線被ばくの影響、出生前診断の影響等を含む）に関する研究	中川 秀昭	公衆衛生学	¥200,000	委補	厚生労働省
東京電力福島第一原子力発電所における緊急作業従事者の放射線被ばく量と水晶体混濁発症に関する調査	佐々木 洋（研究代表者）	眼科学	¥1,539,000	委補	厚生労働省

特定健診・保健指導におけるメタリックシフト・ロームの診断・管理のエビデンス創出に関する横断・縦断研究	中川 秀昭	公衆衛生学	¥1,100,000	補	厚生労働省
からだを透かして見てみようー透明人間できるかな？ー2014	八田 稔久	解剖学 I	¥403,000	委補	(独) 日本学術振興会
長寿のニューってできるんけ？2014～食品の「活性酸素」消去能力を測定しよう～	島田 ひろき	解剖学 I	¥403,000	委補	(独) 日本学術振興会
人に病気をうつす虫(蚊)がどんな奴か観察してみよう	村上 学	生命科学研究領域	¥403,000	委補	(独) 日本学術振興会
第13回日本韓国糖尿病腎症セミナー	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥1,200,000	委補	(独) 日本学術振興会
眼部への電波ばく露の定量的調査に関する研究	佐々木 洋	環境原性視覚病態研究部門	¥20,298,000	委補	総務省
自己組織再生型心血管デバイスの開発及び安全性・有効性評価のための技術開発	秋田 利明	心臓血管外科学	¥7,405,000	委補	大阪大学 ((社)医薬品開発支援機構)
第13回日本韓国糖尿病腎症セミナー	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥1,800,000	委補	石川県地域医療推進室
がん検診の有効性評価に関する研究	佐川 元保	呼吸器外科学	¥200,000	委補	独立行政法人国立がん研究センター
進行膵癌とそのエクソソームをダブルターゲットとした治療薬の開発	島崎 猛夫	先端医療研究領域	¥4,000,000	委補	名古屋大学 ((独) 科学技術振興機構)
抗線維化ペプチド薬の開発	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	¥4,800,000	委補	名古屋大学 ((独) 科学技術振興機構)
重症心不全患者に対するテイラーメイド方式心臓サポートネット開発	秋田 利明	心臓血管外科学	¥25,037,000	委補	名古屋大学 ((独) 科学技術振興機構)
レチノイン酸合成・代謝酵素発現抑制による催奇形性の確認	八田 稔久	解剖学 I	¥1,600,000	委補	東北薬科大学(内閣府食品安全委員会)

がん幹細胞を標的とした根治療法の開発	清川 悦子	病理学 I	¥1,022,000	補 委	金沢大学（文部科学省）
微細加工技術の高度化と集積化による患者負担軽減のための神経内視鏡切断処置具の開発	赤井 卓也	脳神経外科学	¥982,000	補 委	(株)COM-ONE(経済産業省)
スフィンゴミエリン合成酵素（SMS）1を標的とした難治性がんに対する次世代抗がん剤の開発	岡崎 俊朗	血液免疫内科学	¥490,000	補 委	(独)科学技術振興機構
カドミウム汚染地域（神通川流域、梯川流域）住民の追跡研究―カドミウム暴露に伴う生命予後と健康影響―	中川 秀昭	公衆衛生学	¥5,000,000	補 委	日本エヌ・ユー・エス（株）（環境省）
磁場式ナビゲーションを併用したNBIガイド神経内視鏡手術の確立	笹川 泰生	脳神経外科学	¥1,000,000	補 委	(公財)内視鏡医学研究振興財団
動脈硬化の発症と進展に関与する新規メカニズムの探索と治療法開発	梶波 康二	循環器内科学	¥6,100,000	補 委	(財)車両競技公益資金記念財団
高齢者施設で働く介護職における認知症高齢者への虐待の実態―意思決定と虐待の寒冷性を中心に―	河野 由美子	看護学部	¥453,000	補 委	(公財)在宅医療助成勇美記念財団
第13回日本韓国糖尿病性腎症セミナー	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥1,000,000	補 委	(公財)鈴木万平糖尿病財団
カテコール代謝不全がもたらす糖代謝異常の統合的理解と新規治療戦略開発	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	¥1,000,000	補 委	ノボ ノバルティス ファーマ
糖尿病腎症の発症・進展におけるミトコンドリア恒常性の破綻と治療標的としてのサーチュインの意義の解明	北田 宗弘	糖尿病・内分泌内科学	¥1,000,000	補 委	(公財)鈴木謙三記念医科科学応用研究財団
悪性中皮腫におけるホメオティック遺伝子ATBF1と、polycomb group蛋白EZH2、癌抑制遺伝子p16の動態解析	湊 宏	臨床病理学	¥1,000,000	補 委	(財)北國がん基金
頭頸部癌の化学放射線療法における治療効果予測因子としてのPerfusion CTの検討	的場 宗孝	放射線医学	¥1,000,000	補 委	(財)北國がん基金
金沢医科大学 禁煙隊	中島 素子	看護学部	¥300,000	補 委	(財)北國がん基金

血管内皮Sirt1による抗老化制御機構の解明	北田 宗弘	糖尿病・内分泌内科学	¥1,500,000	補	(一社)日本老年医学会
肥満や糖尿病などの代謝疾患、動脈硬化性疾患、認知症などの社会的課題に対するこれまでの研究実績への表彰	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥500,000	委補	小浜市教育委員会
糖尿病腎線維化機構における「尿」から再吸収された「糖」の意義を解明する。	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	¥3,000,000	委補	(公財)日本糖尿病財団
がん患者の就労と治療の両立を支援するための介入モデルの開発：がん診療連携拠点病院における就労支援に関する実態把握	久村 和穂	腫瘍内科学	¥410,000	委補	(公財)ユニバーサル財団
アセチルコリントランスポーターの同定およびニコチンの影響	村松 郁延	薬理学	¥2,000,000	委補	(公財)喫煙科学研究財団
ニコチンの認知機能と脳内エネルギー代謝に及ぼす影響について	上原 隆	精神神経科学	¥2,000,000	委補	(公財)喫煙科学研究財団
				委	

計 200件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- (注) 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- (注) 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	M. Nishijo	公衆衛生学	2, 3, 7, 8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin in breast milk increases autistic traits of 3-year-old children in Vietnam.	Mol. Psychiatry., 19:1220-1226, 2014
2	K. Kanasaki	糖尿病・内分泌内科学	Linagliptin-mediated DPP-4 inhibition ameliorates kidney fibrosis in streptozotocin-induced diabetic mice by inhibiting endothelial-to-mesenchymal transition in a therapeutic regimen	Diabetes, 63:2120-2131, 2014
3	Y. Fujita	血液免疫内科学	Deficient leptin signaling ameliorates systemic lupus erythematosus lesions in MRL/Mp-Fas ^{lpr} mice	J. Immunol., 192:979-984, 2014
4	T. Uehara	精神神経科学	Tandospirone, a 5-HT _{1A} partial agonist ameliorates aberrant lactate production in the prefrontal cortex of rats exposed to blockade of N-methyl-D-aspartate receptors; Toward the therapeutics of cognitive impairment of schizophrenia	Front Behav Neurosci., 8:291:1-8, 2014
5	H. Akao	循環器内科学	ABCA1 gene variation and heart disease risk reduction in the elderly during pravastatin treatment	Atherosclerosis, 235:176-181, 2014
6	M. Sakurai	公衆衛生学	Sugar-sweetened beverage and diet soda consumption and the 7-year risk for type 2 diabetes mellitus in middle-aged Japanese men	Eur. J. Nutr., 53:251-258, 2014
7	M. Matoba	放射線医学	Fractional change in apparent diffusion coefficient as an imaging biomarker for predicting treatment response in head and neck cancer treated with chemoradiotherapy	AJNR Am J Neuroradiol., 35:379-385, 2014
8	Y. Motoo	腫瘍内科学	Use of Kampo diagnosis in randomized controlled trials of Kampo products in Japan: a systematic review	PLoS ONE, 9:e104422:1-9, 2014
9	H. Shiga	耳鼻咽喉科学	Reduced nasal transport of insulin-like growth factor-1 to the mouse cerebrum with olfactory bulb resection.	Chem. Senses, 39:595-599, 2014
10	H. Minato	臨床病理学	Comparative immunohistochemical analysis of IMP3, GLUT1, EMA, CD146, and desmin for distinguishing malignant mesothelioma from reactive mesothelial cells	Am. J. Clin. Pathol., 141:85-93, 2014
11	K. Nakamura	公衆衛生学	Overall sleep status and high sensitivity C-reactive protein: a prospective study in Japanese factory workers	J. Sleep. Res., 23:717-727, 2014
12	O. Iritani	高齢医学	Association between blood pressure and disability-free survival among community-dwelling elderly patients receiving antihypertensive treatment	Hypertens. Res., 37:772-778, 2014
13	K. Ozaki	肝胆膵内科	Serum endocan as a novel prognostic biomarker in patients with hepatocellular carcinoma	J Cancer., 5:221-230, 2014

14	K. Tanabe	循環器内科学	Increased levels of the oxidative stress marker, nitrotyrosine in patients with provocation test-induced coronary vasospasm	J. Cardiol., 64:86-90, 2014
15	K. Nakamura	公衆衛生学	HOMA-IR and the risk of hyperuricemia: a prospective study in non-diabetic Japanese men	Diabetes Res. Clin. Pract., 106:154-160, 2014
16	Y. Oka	産科婦人科学	Prenatal diagnosis of fetal respiratory function: evaluation of fetal lung maturity using lung-to-liver signal intensity ratio at magnetic resonance imaging	Prenat. Diagn., 34:1289-1294, 2014
17	K. Fukui	整形外科科学	Inversion of the acetabular labrum triggers rapidly destructive osteoarthritis of the hip: Representative case report and proposed etiology	J. Arthroplasty., 29:2468-2472, 2014
18	A. Arimoto	眼科学	Effect of rebamipide ophthalmic suspension on signs and symptoms of keratoconjunctivitis sicca in sjogren syndrome patients with or without punctal occlusions	Cornea, 33:806-811, 2014
19	M. Nishijo	公衆衛生学	Risk assessment for Thai population: benchmark dose of urinary and blood cadmium levels for renal effects by hybrid approach of inhabitants living in polluted and non-polluted areas in Thailand	BMC Public Health, 14:702;1-9, 2014
20	R. Saito	循環器内科学	Nutri-pharmacogenomics of warfarin anticoagulation therapy : VKORC1 genotype-dependent influence of dietary vitamin K intake	J. Thromb. Thrombolysis., 38:105-114, 2014
21	Y. Sasagawa	脳神経外科学	Narrow band imaging-guided endoscopic biopsy for intraventricular and paraventricular brain tumors:clinical experience with 14 cases	Acta Neurochir (Wien), 156:681-687, 2014
22	N. Toshikuni	肝胆膵内科	Real-time image fusion for successful percutaneous radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma.	J Ultrasound Med., 33:2005-2010, 2014
23	K. Usuda	呼吸器外科学	Diagnostic performance of diffusion weighted imaging of malignant and benign pulmonary nodules and masses: comparison with positron emission tomography	Asian Pac. J. Cancer Prev., 15:4629-4635, 2014
24	N. Motono	呼吸器外科学	Differences in the prognostic significance of the SUV max between patients with resected pulmonary adenocarcinoma and squamous cell carcinoma	Asian Pac. J. Cancer Prev., 15:10171-10174, 2014
25	K. Usuda	呼吸器外科学	Relationships between EGFR mutation status of lung cancer and preoperative factors-are they predictive?	Asian Pac. J. Cancer Prev., 15:657-662, 2014
26	K. Usuda	呼吸器外科学	Recurrence and metastasis of lung cancer demonstrate decreased diffusion on diffusion-weighted magnetic resonance imaging	Asian Pac. J. Cancer Prev., 15:6843-6848, 2014
27	K. Matsunaga	消化器内科学	The *1244A>G polymorphism of MyD88(rs7744) is closely associated with susceptibility to ulcerative colitis	Mol. Med. Report., 9:28-32, 2014
28	M. Tanaka	呼吸器外科学	Postoperative drainage with one chest tube is appropriate for pulmonary lobectomy: a randomized trial	Tohoku J. Exp. Med., 232:55-61, 2014

29	Y. Morikawa	医科学	The effect of age on the relationships between work-related factors and heavy drinking	J. Occup. Health, 56:141-149, 2014
30	H. Shiga	耳鼻咽喉科学	Combinations of two odorants of smell identification test for screening of olfactory impairment.	Auris Nasus Larynx, 41:523-527, 2014
31	K. Miyazawa	泌尿器科学	Immunohistochemical expression of four different stem cell markers in prostate cancer: High expression of NANOG in conjunction with hypoxia-inducible factor-1 α expression is involved in prostate epithelial malignancy	Oncol. Lett., 8:985-992, 2014
32	M. Sakurai	公衆衛生学	Association between a serum thyroid-stimulating hormone concentration within the normal range and indices of obesity in Japanese men and women.	Intern. Med., 53:669-674, 2014
33	M. Oguri	小児科学	Subclinical arterial stiffness in young children after Kawasaki disease	Cardiol Young, 24:87-94, 2014
34	M. Yamashita	形成外科学	Repair of orbital fracture: the antral balloon with implantable reservoir technique	J. Craniofac. Surg., 25:554-556, 2014
35	M. Yamashita	形成外科学	Incidence of lower eyelid complications after a transconjunctival approach: influence of repeated incisions.	J. Craniofac. Surg., 25:1183-1186, 2014
36	M. Yamashita	形成外科学	Three-dimensional computed tomography venography as a guide for cranioplasty in parietal cephalocele	J. Craniofac. Surg., 25:224-225, 2014
37	K. Usuda	呼吸器外科学	Assessment of bispectral index monitor during flexible bronchoscopy performed under conscious sedation	気管支学, 36:12-19, 2014
38	K. Fukui	整形外科科学	Retrieval analysis of new-generation yttria-stabilized zirconia femoral heads after total hip arthroplasty	Eur J Orthop Surg Traumatol., 24:1197-1202, 2014
39	H. Ogiso	血液免疫内科学	Comparative analysis of biological sphingolipids with glycerophospholipids and diacylglycerol by LC-MS/MS, Metabolites.	Metabolites., 4:98-114, 2014
40	M. Kitada	糖尿病・内分泌内科学	Role of sirtuins in kidney disease	Curr. Opin. Nephrol. Hypertens., 23:75-79, 2014
41	M. Okuro	高齢医学	Sleep apnea in the elderly, Curr Opin Psychiatry.	Curr Opin Psychiatry., 27:472-477, 2014
42	T. Otsuda	糖尿病・内分泌内科学	Low-protein diet for diabetic nephropathy	Curr. Diab. Rep., 14:523;1-10, 2014
43	E. Kiyokawa	病理学 I	Activated K-RAS and its effect on morphological appearance.	J. Biochem., 156:137-145, 2014

44	K. Nakamura	公衆衛生学	Impact of cardiovascular risk factors on medical expenditure: evidence from epidemiological studies analysing data on health checkups and medical insurance	J. Epidemiol., 24:437-443, 2014
45	N. Toshikuni	肝胆膵内科	Hepatitis C-related liver cirrhosis - strategies for the prevention of hepatic decompensation, hepatocarcinogenesis, and mortality	World J. Gastroenterol., 20:2876-2887, 2014
46	N. Toshikuni	肝胆膵内科	Nutrition and exercise in the management of liver cirrhosis	World J. Gastroenterol., 20:7286-7297, 2014
47	N. Toshikuni	肝胆膵内科	Clinical differences between alcoholic liver disease and nonalcoholic fatty liver disease	World J. Gastroenterol., 20:8393-8406, 2014
48	D. Koya	糖尿病・内分泌内科学	Interventions against nutrient-sensing pathways represent an emerging new therapeutic approach for diabetic nephropathy	Clin. Exp. Nephrol., 18:210-213, 2014
49	R. Tomioka	神経内科学	Biomarkers for multiple sclerosis	Intern. Med., 53:361-365, 2014
50	M. Matsui	神経内科学	Japanese guidelines for fingolimod in multiple sclerosis:putting into practice, Clin.	Clin. Exp. Neuroimmunol., 5:34-48, 2014
51	Y. Masaki	血液免疫内科学	IgG4-related disease:Diagnostic methods and therapeutic strategies in Japan	J. Clin. Exp. Hematop., 54:95-101, 2014
52	K. Nakamura	公衆衛生学	Hypertension and medical expenditure in the Japanese population: Review of prospective studies.	World J Cardiol., 6:531-538, 2014
53	K. Kanasaki	糖尿病・内分泌内科学	N-acetyl-seryl-asparatyl-lysyl-proline: a valuable endogenous anti-fibrotic peptide for combating kidney fibrosis in diabetes	Front Pharmacol., 5:1-11, 2014
54	M. Kitada	糖尿病・内分泌内科学	Clinical therapeutic strategies for early stage of diabetic kidney disease	World J Diabetes., 5:342-356, 2014
55	M. Sagawa	呼吸器外科学	Saline-cooled radiofrequency coagulation during thoracoscopic surgery for giant bulla	Eur J Cardiothorac Surg, 46:737-739, 2014
56	K. Kato	顎口腔外科学	Rheumatoid nodule in the lower lip of a patient with rheumatoid arthritis: a novel case report and review of literature.	J. Oral Maxillofac. Surg., 72:1532.e1-1352.e5, 2014
57	M. Yamashita	形成外科学	Intraoperative acquired pressure ulcer on lower lip: a complication of rhinoplasty	J. Craniofac. Surg., 25:e3-e4, 2014
58	M. Doai	放射線医学	1H-MR spectroscopy in a case of isolated intracranial rosai-dorfman disease	J Neurol Sci Turk, 31:790-795, 2014

59	T. Nakamura	小児科学	Chronic thromboembolic pulmonary hypertension related to hemangiolympangioma	Case Reports in Clinical Medicine., 3:36-37, 2014
60	K. Fukui	整形外科	Imaging and histopathological evaluation of a cystlike formation in subchondral insufficiency fracture of the femoral head: a case report and literature review.	Int J Surg Case Rep., 5:324-329, 2014
61	M. Nakamura	消化器内科学	A new method using a polyglycolic acid monolayer patch to shield the mucosal defect after endoscopic submucosal dissection	Endoscopy, 46:E176-E177, 2014
62	M. Nakamura	消化器内科学	Endoscopic submucosal dissection of an esophageal tumor using a transnasal endoscope without sedation	Endoscopy, 46:E115-E116, 2014
63	K. Matsunaga	消化器内科学	A case of IgG4-related disease complicated by duodenal bulbitis with IgG4-positive plasma cell infiltration	Endoscopy, 46:E408-E410, 2014
64	K. Kanasaki	糖尿病・内分泌内科学	Combating kidney fibrosis	Biomed Res Int., 2014:679154;1-2, 2014
65	M. Sakurai	衛生学	Sugar-sweetened beverage and diet soda consumption and the 7-year risk for type 2 diabetes mellitus in middle-aged Japanese men	Eur. J. Nutr., 53:1137-1138, 2014
66	D. Koya	糖尿病・内分泌内科学	Dual protein kinase C alpha and beta inhibitors and diabetic kidney disease: a revisited therapeutic target for future clinical trials	J Diabetes Investig, 5:147-148, 2014

計 66件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- (注) 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- (注) 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- (注) 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(注) 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

(注) 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 学校法人金沢医科大学における人を対象とする医学系研究に関する倫理規程 ・ 金沢医科大学における人を対象とする医学系研究に関する倫理審査委員会規程 ・ 金沢医科大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する規定	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 産学官連携活動における利益相反を適正に管理することを目的とし、教職員等に対し、臨床研究等を開始する前、厚生労働科学研究費補助金の交付申請書の提出前等に、利益相反自己申告書を提出することを義務付けている。申告書が提出されると、利益相反マネジメント委員会にて、利益相反に関する情報収集、分析、検討、審査が行われ、評価・報告がなされる。また、必要に応じて、モニタリングを行い、研究者が適正な臨床研究等を実施することができるよう利益相反のマネジメントを行うこととしている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 ・ H27年3月27日 治験・臨床研究の倫理に関する教育研修会 『臨床研究の質の管理～Risk Based Monitoringとは～』 (対象：全職員)	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本院の後期臨床研修では、総合診療医（家庭医）、専門医など個々が目指すキャリアに柔軟に対応するプログラムを準備している。医師として本院で働きながら大学院への進学も可能であり、海外留学についても積極的に支援を行っている。2年間の初期臨床研修で修得した知識と技術を基礎に、各診療科に関連した学会の認定医・専門医・指導医の資格を取得した教授、准教授、講師などの強力な指導体制のもと、さらに高度な医療を身につけることを目指している。

具体的には、各診療科毎に独自の研修プログラムを組んでおり、内科系・外科系で研修期間は異なる。各診療科における研修内容及び到達目標は、認定医・専門医・指導医の取得である。本院で取得可能な認定医・専門医・指導医の種類は96種類にものぼり、高い専門性からジェネラルフィジシャン（総合診療医）の知識・技能の習得まで、あらゆる将来の選択が可能である。後期臨床研修においてもローテーション枠を設けており、また、専門科間、職種間のカンファレンスが日常的に行われている。

各診療科における①後期臨床研修プログラムの目的、②後期臨床研修プログラム修了後のコース、③時間割、研修内容及び到達目標、④取得できる認定医、専門医（必要な期間）資格とその取得にかかわる概要、⑤週間スケジュール等の詳細については、本院臨床研修センターが作成する「金沢医科大学病院臨床研修プログラム」（職臨床研修医・後期臨床研修医）の冊子に示している。

http://www.kanazawa-med.ac.jp/~hospital/recruit/trainee/digitalbook_h26/#page=1

なお、大学院への進学については、平成24年度から初期臨床研修医2年次からの大学院進学が可能となり、後期臨床研修医採用の魅力となっている。

2 研修の実績

研 修 医 の 人 数	93 人
-------------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診 療 科	役 職 等	臨床経験年数	特 記 事 項
梶波 康二	循環器内科	診療科長	31 年	
北山 道彦	心血管カテーテル治療科	診療科長	32 年	
秋田 利明	心臓外科	診療科長	34 年	
四方 裕夫	血管外科	診療科長	33 年	
梅 博久	呼吸器内科	診療科長	34 年	
佐川 元保	呼吸器外科	医 局 長	34 年	
有沢 富康	消化器内科	診療科長	32 年	
堤 幹宏	肝胆膵内科	診療科長	33 年	
伊藤 透	消化器内視鏡科	診療科長	31 年	
小坂 健夫	一般・消化器外科	診療科長	35 年	
野口 昌邦	乳腺・内分泌外科	診療科長	38 年	
横山 仁	腎臓内科	診療科長	34 年	
宮澤 克人	泌尿器科	診療科長	31 年	
古家 大祐	内分泌・代謝科	診療科長	32 年	
正木 康史	血液・リウマチ膠原病科	診療科長	25 年	
松井 真	神経内科	診療科長	34 年	
飯塚 秀明	脳神経外科	診療科長	35 年	
森本 茂人	高齢医学科	診療科長	37 年	
犀川 太	小児科	診療科長	27 年	
河野 美幸	小児外科	診療科長	33 年	
川崎 康弘	神経科精神科	診療科長	30 年	
川崎 康弘	心身医学科	診療科長	30 年	
利波 久雄	放射線科	診療科長	36 年	
的場 宗孝	放射線治療科	診療科長	21 年	
川原 範夫	整形外科	診療科長	32 年	
川上 重彦	形成外科	診療科長	37 年	
佐々木 洋	眼 科	診療科長	28 年	
三輪 高喜	耳鼻咽喉科	診療科長	32 年	
辻 裕之	頭頸部・甲状腺外科	診療科長	34 年	
望月 隆	皮膚科	診療科長	33 年	
笹川 寿之	産科婦人科	診療科長	32 年	
土田 英昭	麻酔科	診療科長	36 年	
影近 謙治	リハビリテーション医学科	診療科長	28 年	

和藤 幸弘	救命救急科	診療科長	32	年	
湊 宏	病理診断科	診療科長	25	年	
飯沼 由嗣	感染症科	診療科長	27	年	
瀬上 夏樹	歯科口腔科	診療科長	36	年	
浅地 孝能	健康管理センター	センター長	31	年	
元雄 良治	集学的がん治療センター	センター長	35	年	
小林 淳二	総合診療センター	センター長	28	年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

<胸痛ホットライン研修>

- ・研修の主な内容

緊急心血管疾患に対する迅速な対応を目的に設置された「胸痛ホットライン」について、急病発症から適切な治療が施されるまでの時間短縮がいかに救命に重要であることを再認識するため、また、専用電話が稼動してからの経過の情報共有と問題点等の意見交換を目的とした研修会

- ・研修の期間・実施回数

平成26年度 第1回 4月30日、第2回 8月21日、第3回 2月12日

- ・研修の参加人数

第1回 71名、第2回 79名、第3回 54名

<がん薬物療法研修会>

- ・研修の主な内容

がん薬物療法における支持療法について（骨髄抑制、悪心・嘔吐、口内炎）の薬剤師対象研修会

- ・研修の期間・実施回数

平成26年度 8月4日

- ・研修の参加人数

53名

<がん看護イブニング研修>

・研修の主な内容

がん患者一人一人に合わせた看護研修を創出できるよう、がんの診断期から終末期における患者の身体や精神状態の特徴を知り、患者に関わるための基礎的知識・技術を習得する看護師向け研修（基礎コース・緩和ケアコース・化学療法看護コース・放射線治療コース）

・研修の期間・実施回数

基礎コース（5月～12月）月1回 全8回、緩和ケアコース（5月～2月）月1回 全10回、
化学療法看護コース（5月～2月） 全10回、放射線療法コース（5月～2月）全10回

・研修の参加人数

基礎コース 受講者 88名（修了者：71名）緩和ケアコース 受講者25名（修了者：19名）、
化学療法看護コース 受講者22名（修了者：14名）、放射線療法コース 受講者15名（修了者：9名）

<ELNEC-J看護師教育プログラム>

・研修の主な内容

エンド・オブ・ライフ・ケア（病いや老いなどにより、人が人生を終える時期に必要とされるケア）を提供する看護師のための包括的なプログラム研修

・研修の期間・実施回数

平成26年 8月5日（火）～6日（水）

・研修の参加人数

県内看護師45名

（注）1 高度の医療に関する研修について記載すること。

（注）2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六條の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 松本 忠美
管理担当者氏名	病院事務部事務長 山下 和夫

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録		病院管理課 薬剤部 看護部 中央放射線部 医療情報部 医事課	【診療録】 患者登録は初回来院時の登録番号（7桁）を基準として、1患者1番号で生涯有効性を採用し、1患者の入院と外来の全病歴を電子媒体により保存・管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	病院職員課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	病院職員課	
	閲覧実績	病院管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携事務課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院管理課、薬剤部	
第規 一則 号第 一に 掲条 げの 十一 体制 第一 の確 項保 各号 状及 況 第 九 条 の 二 十 第 一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全部（医療安全管理室）	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全部（医療安全管理室）	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全部（医療安全管理室）	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全部（医療安全管理室）	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全部（医療安全管理室）	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全部（感染制御室）	
	医療に係る安全管理を行う部門の配置状況	医療安全部（医療安全管理室）	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全部（医療安全管理室）	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	医療安全部（感染制御室）
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全部（感染制御室）
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全部（感染制御室）
	第一項各号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全部（感染制御室）
	及び第九条の二	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第十三条	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第一項	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME 部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME 部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME 部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME 部

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	医療情報部長 堀 有行 (診療記録)
閲覧担当者氏名	情報管理課長 山野 清一 (診療記録)
閲覧の求めに応じる場所	病院情報管理課事務室内
閲覧の手続の概要	
電子カルテシステム稼働 (平成12年) 以前の紙の診療録の貸出しは、貸出日の前日までに貸出依頼票を提出し、医療情報部長の許可を受けて行ないます。 貸出期間は2日以内ですが、死亡患者については7日以内となっています。 当該患者の診療のため診療録が必要となった場合を除き診療録の閲覧場所は情報管理課事務室内で行ないます。診療録の利用に当たり、管理場所以外へ診療録を移動すること、また利用者間で診療録をまた貸しすることは「診療録貸出規程」にて禁止事項となっております。	

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	274 件
閲覧者別	医師	延	248 件
	歯科医師	延	26 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 医療事故防止に関する安全管理体制の指針（以下「指針」という。）は、医療事故防止に関する安全管理体制、安全管理体制に関する関係規程及び医療事故防止に関する共通及び部門マニュアルの3部構成をとっている。 指針は、医療事故防止に関する病院の方針、用語の定義、医療事故の防止体制、医療事故発生時の対応、インシデントレポートに関する基本事項、医療事故防止規程・マニュアルの整備、医療事故防止に関する職員の研修、患者暴力行為への対応、安全管理体制に関する組織図等、医療事故報告書様式など医療事故防止に係る基本的事項を収載している。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 24 回
・ 活動の主な内容： *医療安全対策小委員会：月1回開催（第3水曜日） 医療安全対策小委員会は医療安全管理室長を委員長に配し、医療安全管理者、内科系・外科系・小児科・麻酔科医師、看護師、薬剤師、医療技術職員及び事務職員の21名で構成され、医療安全管理者が決めたテーマや各部門に共通するようなインシデント事例を抽出して事例検討を行う。小委員会では、インシデントに至る状況、要因、影響等について、徹底的に分析・検討し、改善策や再発防止対策を洗い出す。また、その結果を医療安全対策委員会に小委員会からの事例報告として報告・提案・注意喚起するとともに、システムの改善で防止できるものであれば担当部署に委員会として改善を要望する。 *医療安全対策委員会：月1回開催（第4火曜日） 医療安全対策委員会は各部門・各部署の部門リスクマネージャー（病棟医長、部長、看護師長、技師長、課長相当職）80名で構成されている。インシデント情報の収集結果、状況別・原因別集計表及び医療安全対策小委員会から報告されるインシデント事例の分析・検討結果及び改善策、医療問題検討委員会で検討された医療事故に関してそれぞれの部門・部署に周知すると共に情報を共有し、事故の防止に努める。さらに、診療科、病棟、薬剤部、ME部他関連する部署のスタッフが、それぞれの部署でのインシデント事例について、それぞれの職種の立場を超えて分析・検討するインシデント分析検討会を定期的に行っており、その内容について毎回2グループずつ代表者が報告する。他に指針・マニュアルの改正、医療安全院内ラウンド、全体職員・リスクマネージャー研修会、医療安全アンケート、その他医療安全に係る事項についての審議・結果報告を行う。 委員会の議事録及び資料は、各委員及び全リスクマネージャーに配付し、所属職員全員に周知するよう回覧を行い、読んだ者はサインするようにしている。他に、電子カルテ上とイントラネット「病院職員のページ」にも委員会の議事録を掲載している。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： 特定機能病院としての医療安全管理体制を確保するための職員研修会（第1回目） 開催日 平成26年7月18日（金） テーマ 原点に戻る：事例から考える院内医療安全 講師 廣瀬 昌博先生（島根大学医学部 地域医療政策学講座教授） 特定機能病院としての医療安全管理体制を確保するための職員研修会（第2回目） 開催日 平成27年2月17日（火） テーマ 輸血用血液製剤の安全な取り扱いについて 講師 加藤 道 先生（日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター学術情報課長）	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容：	

院内で起こった医療事故は、速やかに病院長まで報告されると共に医療安全管理者が現場へ出向き、情報収集を行う。院内で発生した事故事例については、月2回開催される医療問題検討委員会で全事例の協議・対応を図ると共に、更に調査・検討が必要な医療事故に対して、医療事故調査委員会の開催要否の審議を行っている。

医療事故調査委員会では、関係者から詳細な事故状況の報告を求め、それに関する質問と討論から背景、要因、問題点を洗い出して分析・検討をしている。重大事例や情報を共有して再発防止に役立つ事例は、医療安全対策委員会で報告を行って職員に周知する他、外部機関である日本医療機能評価機構へ報告を行う。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況

☒ (1 名) ・ 無

⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況

☒ (5 名) ・ 無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況

有 ・ 無

・ 所属職員： 専任 (7) 名 兼任 (8) 名

・ 活動の主な内容：

・ 医療安全対策委員会、医療安全対策小委員会及び事故調査委員会、医療問題検討委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全対策委員会の庶務に関すること。

・ 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。

・ 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。

・ 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。

・ 医療安全に係る連絡調整に関すること。

・ 診療情報提供に関すること。

・ 医療安全相談に関すること。

・ その他医療安全対策の推進に関すること。（病院全職員を対象とするもの、特定の部署の職員を対象とするもの等の職員研修の計画・立案・実施等）

・ 暴力行為発生時の対応に関すること。

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

☒ ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の整備状況	有 ・ 無
・ 指針の主な内容： 1. 院内感染に対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本事項 5. 院内感染発生時の対応に関する基本事項 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他院内感染対策推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： 1. 感染管理組織とシステムの構築 2. 院内感染サーベイランス 3. 感染に対するコンサルテーション 4. 感染管理教育 5. 職業感染防止 6. 感染管理技術：マニュアル作成・改訂 7. ファシリティ・マネジメント 【委員会の開催】 1) 月1回年間12回の定例開催 2) 委員数30名 3) 年度平均出席率 82.7%	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 12 回
・ 研修の主な内容： 【全職員対象】 1) 「当院における院内感染対策の課題と対応」 開催日時：平成26年6月23日（月） 講師：1. 適切な感染症診療を目指して 馬場尚志 臨床感染症学准教授 医療安全部感染制御室副室長 2. これがポイント！感染対策 野田洋子 医療安全部感染制御室課長（感染管理認定看護師） 2) 「エボラ出血熱について、個人防護具の着脱について他」 開催日時：平成26年度11月28日（金） 講師：飯沼由嗣 臨床感染症学教授 医療安全部感染制御室室長 野田洋子 医療安全部感染制御室課長 3) 「災害時の感染症対策について」 開催日時：平成27年度2月27日（金） 講師：高橋孝 北里大学大学院 感染制御科学府感染症学教授 【新採用者対象】 1) 全員「新入職員オリエンテーション」 開催日時：平成26年4月2日 2) コメディカル対象 開催日時：平成26年4月2日 3) 研修医対象 開催日時：平成26年4月4日 4) 新人看護職員研修 開催日時：平成26年4月4日、8日 【その他】 1) リンク委員対象 開催日時：平成26年9月17日「<i>Clostridium difficile</i>について」 2) 看護部 2年次研修 開催日時：平成26年6月4日、他 3) 看護部 3年次研修 開催日時：平成26年8月12日、他 4) 看護部 看護補助員研修 開催日時：平成26年7月31日「感染対策について」 5) 帰局職員及び中途採用者対象 開催日時：平成26年10月2日 その他、育児休業明け看護職員、各フロア向けはその都度必要時、研修会を行っている	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有) ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. リンク委員活動の充実 2. 院内ラウンドによる感染対策遵守状況の確認 3. 感染症サーベイランスの導入と効果的なフィードバックの実践 4. 適正な畜尿および尿量測定の徹底 5. 職業感染防止対策の充実：安全器材の見直し（ディスポ血統測定器の導入）フィットテストの実施 6. 手指衛生の遵守率の向上（啓発とモニタリング） 7. 月例および随時 I C T ニュースの発行と周知徹底 8. I C T ラウンドへのリンク委員およびリンクナースの参加 9. 感染症教育の充実 10. 認定 I C N、院内における感染管理者の育成 11. 病院内全職員を対象とした、ワクチン接種による抗体獲得の推進 12. 各部門で使用されている消毒薬の使用方法的確認	

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容： 麻薬及び向精神薬の処方と取り扱い（新採用研修医対象） 麻薬及び向精神薬の取り扱い（新採用看護師対象） ハイリスク薬の取り扱い（新採用看護師対象）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 ☒ 有 ・ 無 ・ 業務の主な内容： 年1回、確認チェックリストを用いて、手順書通りに医薬品に関する業務が実施できているかを確認しチェックする。結果は、医薬品安全管理者から病院長に報告し、決裁を得て、薬剤部で保管している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ☒ 有 ・ 無 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 院内情報誌を作成し、情報提供している。 情報の提供方法は、電子メール、電子カルテ初期画面への貼り付け、病棟薬剤師による口頭説明を行っている。配布文書については、各部署の周知確認を行っている。	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 18 回
・ 研修の主な内容： 機器研修はH19. 3. 30医政局通知（有効性、安全性、使用方法、保守、不具合時の対応、法令上の遵守事項。2回／年）に従っている。人工呼吸器等の主要ME機器については医療安全部、看護部、ME部（当院の機器管理部門）等が協力、連携し機器研修を実施している。（平成26年9月より平成27年8月までの研修等の実施回数 18回、参加延べ人数約327名）	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の作成 ☒ (有) 無 ・ 保守点検の主な内容： 人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、保育器、高エネルギー放射線装置、診療用放射線照射装置及びその他主要ME機器の年間点検計画を策定し機器マニュアル、メーカー指示（点検内容、頻度）に従って各機器のチェックシートを作製し臨床工学技士が通常点検を実施している。また人工呼吸器は通常点検に加えてメーカー推奨の使用時間毎にメーカー定期点検を実施している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ☒ (有) 無 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 機器メーカー、臨床工学技士会、機器等納入業者及び医薬品医療機器総合機構（PMDA）のホームページ、またはPMDAからのメール配信サービスより各種関連情報を入手し関連部門へメール、通達回覧し、必要時には担当ME技士及びメーカーSEにより直接、当該部門で改善指導を行っている。全体に関わる事案については医療安全委員会（各部門リスクマネージャ全員出席）で報告、説明、注意喚起等を実施している。また機器管理部門（当院ではME部）では定期的に部内で機器保守管理検討会を実施し医療機器の効果的な保守点検管理に努めている。	

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	☒ 有 ・ 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構、平成24年1月22日認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 ・ 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有 ・ 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 複数の診療科により連携して診療を行う対診体制を行っている。	